

中二国語科通信

第1号
令和3年8月17日
国語科2年担当
堀之内・日高・奥池



どこからかふわりとひとつしやぼん玉
ちいさき庭を横切りてゆく

二百字の獅子「始動」

一年生の時は、テーマに沿って自由に作文する「百字の獅子」を実施しました。二年生ではさらにステップアップして、テーマに従ってまずは「ロジック・ツリー」を完成させ、それをもとに二百字の文章を作る「二百字の獅子」に取り組んでいます。

第一回のテーマは「メガネとコンタクト、選ぶならどっち?」、第二回は「コンビニは24時間営業をするべきか?」でした。身近なテーマにどう切り込むか?皆さんの「ヤワラカイアタマ」に期待しています。

秀作を3点ご紹介します。



「私を感じるメガネの魅力」

一組 久保田一伽

メガネとコンタクトのどちらをつけるか?聞かれたら、私は絶対にメガネと答える。確かにコンタクトはつけたまま運動ができる、人相が変わらないなどの利点がある。しかし、使い方によっては角膜炎が傷つく可能性がある。また、メガネは取り外しや持ち運びが簡単。なうえ、フレームのデザインを自由に選べるため、今ではファッションの一つとしてオシャレを楽しむことができる。このように、多くの魅力がメガネにはあるのだ。

【評】論理語や譲歩の構文を上手に用いて、安全性・機動性・ファッション性と、様々な角度からメガネの魅力を挙げていますね。

「お客さんも店員も気持ちよく」

三組 宮本侑和

二十四時間営業をするべきだ。なぜなら何かを買い忘れたりしたとき、夜中でも早朝でもすぐに買いに行くことができるからだ。最近、店員一人あたりの労働時間が長いことが問題となっている。しかし、「働く人を増やして、交代する」や「機械化を進める」など、さまざまな解決策がある。

これらの解決策を利用して、工夫していけば、問題なく二十四時間営業を続けていくことができると思う。

【評】働き方の問題に対して、具体的な解決策を示せたのが良いですね。題のつけ方も、とても巧みです。お手本にしてほしい!

「その経営スタイルでいいの?」

三組 中嶋紗彩

私はコンビニの二十四時間営業に反対する。

コンビニは日本経済の一翼を担っているが、その背景にはオーナー側の過酷な労働実態がある。深夜帯の人手不足や人件費の高騰により、体を張って二十四時間体制を維持しているが、本社の支援制度が機能していないのが現状だ。そもそも営業時間の決定権は個々の加盟店にあるのではないだろうか。よって私はコンビニの二十四時間営業をやめるべきだと思う。

【評】見よ、この圧倒的な語彙力!多くの言葉を知っていると、無駄のないわかりやすい表現が可能になります。参考にしてください。

百人一首大会



7月26日

「心を動かす」一生懸命」

奥池大和

コラムマラソン 第一回
「三人のレンガ職人」という有名な寓話を知っていますか?旅人が三人のレンガ職人と出会い、何をしているのかを聞いていくというものです。一人目は「見ればわかるだろう。レンガを積んでいるんだ」と言い、二人目は「レンガを積んでお金を稼いでいるんだ」と言い、三人目は「レンガを積んで多くの人が喜んでくれる教会を作っているんだ」と言います。

今ここで考えるべきは、誰が正しいということではなく、少なくともこの三人の中で大きく違うのが「目的」だということだと思います。この話の「レンガを積んで」というところを「勉強して」にして、自分に置き換えてみてください。なかなか難しいですが、自分が今「学生」としてやっていることが何につながっているのかを考えるべきです。

オリンピックが開催されました。素晴らしい記録、全力のプレーには見る人の心を揺さぶられます。ある目的に向かって「一生懸命」だからでしょう。「一生懸命」は皆さんにも可能はずです。あなたのその頑張る姿は、保護者や家族や先生や友だちといった人たちの心を動かすのです。そしてそれは、十年後のあなたにもつながることでしょう。二十四歳のあなたはきっと社会人になっているはず。社会の中でどんな「目的」をもって働いているのでしょうか。みなさんが人の心を動かす大人になることを心から願っています。